

あなたと私の約束

白浜町立日置中学校 2年 徳 田 蓮

私はこのメッセージを読んだすべての人に、一日一日を大切に、あることを意識して生活してほしいと思う。

「あることを意識する」のあることとは、「身の周りの人がいる生活を過ごせるのは当たり前じゃない」ということだ。私が意識して生活してほしいと思ったのには理由がある。私が実際に体験して感じたこと、後悔したことだからだ。

朝、まぶしい光で目を覚ます。

「はよ起きよしよ。」

と母の声。着替えて、ご飯を食べて、学校に行く。友達と笑って、帰ってきて、テレビを見て、お風呂に入って、眠る。そんな毎日が当たり前だと思っていた。何も考えずに、同じように流れていく毎日。それが「普通」だと信じていた。でもそうじゃなかった。

私が小学校の低学年の頃、母が事故で突然帰らぬ人となった。前触れもなく、言葉も交わせないまま。朝、優しい笑顔で笑っていた母が、夜にはいなかった。まだ幼かった私は、ただ泣くことしかできなかった。頭の中は真っ白で、心だけがぽっかりと穴をあけたまま、時間が止まった。

一日一日が、どれほど尊いものだったのか。

「また明日ね。」

と言えた毎日がどれほど幸せだったのか。私はその日から、ずっと後悔を背負って生きている。

もっとありがとうと伝えたかった。もっと優しくすればよかった。もっと、一緒に笑いたかった。もっと、もっと、もっと。もう届かない思いが、胸にあ

ふれてとまらなかった。

母がいない日々は、息をするのもつらいほどだった。新しい環境、新しい日々、全部が、「母はもういない」という現実を突きつけてきた。苦しくて、寂しくて、逃げ出したくなった。

けれど、そんな私を支えてくれたのもまた、「人の優しさ」だった。友達の言葉、先生のまなざし、家族のぬくもり。私は、人と人とのつながりの中で少しずつ立ち直っていった。そして気づいた。失ってしまったからこそ、私は大切なことに気づけたのだと。

今、私は毎日を意識して生きている。「今日」という日を、もう二度と戻らない大切な1日だと思って。

隣にいる人の笑顔を、ちゃんと見ようと思う。「ありがとう」をちゃんと伝えようと思う。いつか突然、会えなくなってしまう日が来るかもしれないから。

私のように、あの日の自分を責めてほしくない。後悔に押しつぶされるような夜を、誰にも過ごしてほしくない。

だから伝えたい。今を、大切に生きてほしい。身近な人に優しくしてほしい。できることがあるなら、今してほしい。「当たり前」は、永遠じゃないから。

このメッセージを読んでもくれたあなたが、少しでも「大切なもの」に目を向けてくれるなら、私は、それだけで救われる気がする。

「一日、一日を大切に。」あなたと私の、約束です。